日本音楽集団

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

第八十九回◆定期演奏会

ヴァラエティあり、収穫もあった
二十周年記念シリーズ

日本音楽集団の二十年目　富樫　康

Bプロについて　及び　曲の手引　長尾一雄

海外公演の報告と反響

邦楽現代ニュース

後援会発足、ミニコンサート報告
日本音楽集団の活動とご案内　他

一九八五年六月二十日［木］七時開演

朝日生命ホール

巻頭言

自国固有の文化は苗であり、外来の文化は重要な肥料である……。これは故田辺尚雄著「日本の音楽」の序文に述べられている言葉ですが、日本の現状に照らし合わせて、考えさせられる言葉です。硬直化した文化を切り売りし、外来文化を受け売りしているのが現状のように思えます。文化を苗と考えれば私たちの心一つで如何ようにも育てることが可能です。夢もふくらんできます。中国、沖縄をへて日本に入った三弦（サンシェン・サンシン）は猫の皮に張り替えられて日本の楽器三味線になり、日本人の感性を通じて近世音楽史に大きく花を咲かせましたが、このことは外来の文化を見事に日本化したことの証明です。

「文化」を意味するもとの言葉はラテン語の Cultura（クルトゥラ）で、本来は耕作とか栽培とかの意味をもっていました。人間は文化を持つことによって他の動物と区別されました。つまり人間のいないところに文化はないということです。

文化の発展のためには、自然への慈みの心や人々への思いやりの心が不可欠ですが、私たちの毎日の多忙な生活がその心のゆとりを失わせています。

先日、依頼を受けた二つの学校公演（高校）で生徒さんにお箏を習っている人がいるか手をあげて貰いました。一つの高校はゼロ、もう一つの女子高でやっと一人が遠慮がちに手をあげました。人生の中でも、未来へ向って最も夢ひらき、可能性を秘めた中学・高校時代の人たちが、受験競争に追いやられていて自国の音楽文化とのふれあいから疎外されているということです。もちろん、箏を習っている生徒の数だけが文化のバロメーターではありませんが、このところ箏や伝統楽器を習う生徒が急速に減っていると云われ、日本固有の文化の苗になる以前に枯草になり、日本人が自らの手で自らの文化を滅ぼしつつあると云えます。日本の伝統や文化について考える人たちと手を組みたいと思っています。

田村拓男

三木　稔　原案

ニューかぐらパフォーマンス

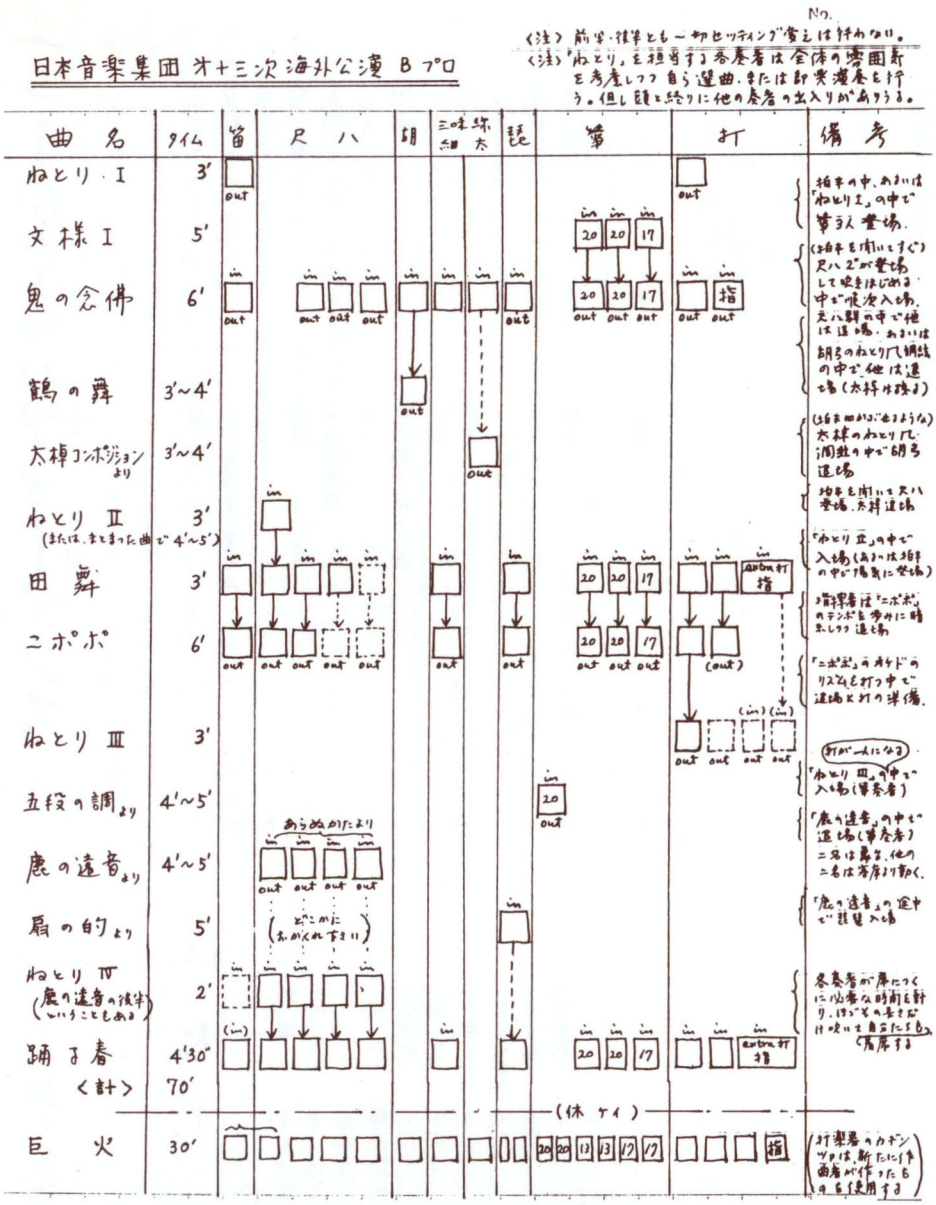
第十三次海外公演Bプロ

ねとりI――笛・鼓
文様(あや)I――二十絃箏2・十七絃
鬼の念仏――合奏
鶴の舞――胡弓
太棹コンポジションより――太棹三味線
ねとりII――尺八
田舞――三味線・笛・合奏
ニポポ――合奏
ねとりIII――打4
五段の調より――二十絃箏
鹿の遠音より――尺八4
扇の的より――琵琶
ねとりIV――尺八4
踊る春――合奏

〔笛〕西川浩平
〔尺八〕三橋貴風・竹井　誠・米澤　浩・素川欣也・水谷雅康
〔胡弓〕畦地慶司
〔三味線〕坂井敏子(太棹)・太田幸子
〔琵琶〕半田淳子
〔箏(十三絃・二十絃箏・十七絃)〕木村玲子・内藤洋子・滝田美智子
〔打楽器〕尾崎太一・藤舎成敏・堅田啓輝
〔指揮〕田村拓男

巨火（ほて）

〔笛〕I 藤崎重康・II 西川浩平
〔尺八〕I 三橋貴風・素川欣也・II 竹井　誠・水谷雅康
III 米澤　浩・水川寿也
〔胡弓〕畦地慶司
〔三味線〕太田幸子(細棹)・坂井敏子(太棹)
〔琵琶〕半田淳子・山田まゆ美
〔箏〕木村玲子・内藤洋子
〔二十絃箏〕滝田美智子・島崎春美
〔十七絃〕宮越圭子・大畠菜穂子
〔打楽器〕I 堅田啓輝・II 藤舎成敏・III 尾崎太一
IV 田村拓男(兼指揮)



プログラムBについて

（第十三次海外公演パンフレットより）

進行表に示したように、今回初めて創案したBプロは、Aプロで定着した今までの集団の公演様式とは、上演についての考え方を基本的に異にしている。

まず曲目の上では、四ヶ所に配したねとり・・・で全体を極めて即興的な雰囲気に導びき、奏者の自主性を引き出したかった。絃楽器の場合は、自由な調絃そのものに曲目転換時の雰囲気づくりを求めた。合奏は個性的で多様な要素を示せるよう配分したが、全体として日本の楽器のアイデンティティを重視し、西洋の真似といわせなかった。どの曲も数分に切りつめられる過程で、古典曲には今日性を持たせ、現代曲には自在性と伝統の香りを籠められるようにした。

一九七〇年の〈凸〉以来、着物姿の指揮者に座奏を求めたのは、日本的な様式のつもりであったし、〈巨火〉や〈コンチェルト・レクイエム〉では、上手寄りで打楽器を兼ねる様式を考案したが、今回のBプロ前半では、更に自由になり、

曲の手引

第一部に登場する曲については、個々の解説は多くを要さず、全体の流れの中で雰囲気を楽しんで頂ければ幸いです。

ねとり

演奏会の冒頭で各奏者がアト・ランダムに登場して調べを合せる音取り（ねとり）や即興的に演ずる行為が、会の雰囲気を生み出し、一つの新しい演奏様式につながると考えられました。第19回定演（一九七三年）で実験され、以降、いろんな場合に登場しています。

今回のねとりII以降は、つなぎの役目も果しています。

文様（あや）I

日本の楽器を四群に分類して作曲された「四群のための形象」（三木稔作曲）の第一曲目。箏群のトリオがあやなす、いわばアラベスクです。

鬼の念仏

長沢勝俊作曲の「大津絵幻想」の一曲目の曲。「大津絵」とは、江戸時代に近江国（今の滋賀県）大津の追分あたりで売られていたおみやげ用の民衆絵画のことで、泥絵具を使ってユーモラスなタッチで画かれています。

鶴の舞

日本の伝統楽器の中で唯一の擦弦楽器である胡弓の復興のために畦地慶司自ら作曲したもの。日本の古典曲には、鶴を題材にしたものが多く、この曲もそうした古典本曲の雰囲気を持つよう意識して作曲されており、鶴の鳴き声や、舞っている風景が繊細に描かれています。

太棹コンポジションより

杵屋正邦が一九六七年に作曲した太棹三味線のためのコンポジション「孤」。元来、義太夫三味線は語りものの伴奏楽器として使われているので、このような絶対音楽としての扱いは、義太夫節二八〇年の歴史の中でも初めての試みといえます。

田舞（たのまい）

古代の世界に現代に通じる多彩な音楽性を求めた「古代舞曲によるパラフレーズ」（三木作曲）の全五曲の第三曲目。大たんなリズムをもったスケルツォです。

ニポポ

長沢勝俊作曲、組曲「人形風土記I」より。六つの郷土人形をモデルに、それぞれのイメージがほうふつとして作曲された作品です。〈ニポポ〉はアイヌの木彫りの信仰人形。

五段の調べより

三木稔が一九七九年八月、レコード「二十絃箏の世界」（昭和五十四年度文化庁芸術祭〈優秀賞〉受賞）の制作にあたって書きあげた曲で「東から」の後半の部分がこれにあたる。八橋検校に敬意を表し、一歩下った「五段の調べ」で、昇る太陽の精気を表現しています。

鹿の遠音より

山路はるかに雄と雌の鹿が呼び合う様を、尺八の技巧を駆使して模した作品（古典本曲）。本日は四本の尺八で演奏されます。

扇の的より

平家と源氏の屋島の合戦で、那須の与一が船上の扇を射落さんとする、かの有名な場面の緊張感の高まりを、琵琶が弾き語ります。

踊る春

三木稔がかつて舞踊のために作曲したものの中から、楽しく易しい旋律を選んで「ダンス・コンセルタントI〝四季〟」という組曲に再編成しました。その一曲目の〝春〟に相当する曲です。

巨火（ほて）

巨大な焔といった意味です。盆の虫送りの道行のときに、たくさんの人が捧げもつものを作者のイメージから〝巨火（ほて）〟と名付けました。三十分近い曲ですが、おおよそ三つの部分に分けて考えられます。第一の部分は〝祀り〟すなわちリチュアルな、幾分厳粛な雰囲気。第二の部分は、〝遊び〟というか、スケルツァンドな部分です。最後は、それが徹底し〝祭り〟フェスティバルになり、笛・打楽器を筆頭に日本のすべての楽器が〈秩父屋台囃子への参加〉を果します。

演奏者・音頭取りであるとともに、アクター・踊り手ですらあった。自然の流れに乗れば中央で指揮もする。

各奏者も、演奏中だけでなく、出入りですら、ヴィジュアルな面ですら、常に自らの創意をもってパフォーマンスに臨まねばならない。その様式は何も日本の伝統芸術的・式楽的なスタティックなものに限定されない。例えば〈田舞〉の前後など、野趣を全員それぞれに表現してもらった。スタッフは、全体の流れを会場のどこからか見つめている私しかいないし、音楽の流れを止める一切の配置転換はしないですむように工夫した。それでいて演奏のポジションは多様である。今までのように、ソロが必ず舞台前面中央でやるわけではない。殆んど合奏時の定位置がその楽器のソロの場としても活用され、活動的な楽器は、その特性を生かして動きながら自由に場を形成した。

Aプロ、そして「合奏＋協奏曲＋合奏」に配列された理想的なCプロが選ばれたとき、二十年を経た集団のコンサートのティピカルなタイプが出揃うはずである。

（三木　稔）

海外公演の報告と反響

創立二十周年を迎えた昨年、私たち日本音楽集団は独自の音楽文化使節として第十三回目の海外公演を左記のように行ないました。

今回の海外公演は九月二十三日より十月二十日までの一ヵ月間であり訪問した国々はソ連（レニングラード、モスクワ）、東ドイツ（フランクフルト・アム・オーダー、ライプチヒ、東ベルリン）、フランス（パリ）、フィンランド（ヘルシンキ）の四ヶ国です。ライプチヒ、ベルリンでは三木稔作曲「急の曲」をクルト・マズア指揮ゲヴァントハウスオーケストラとの再演、ヘルシンキでは同曲のペルティ・ペッカネン指揮ヘルシンキフィルハーモニーオーケストラとの初演を含んでいました。

（詳細は報告パンフレット参照）

モスクワの「巨火」'84.9.28

●参加団員

笛――西川浩平・竹井誠（兼尺八）
尺八――三橋貴風・福田輝久・米澤浩・坂田誠山（パリのみ）
胡弓――畦地慶司
三味線――坂井敏子（太棹）・太田幸子
琵琶――半田淳子・山村美子（団外）
箏――吉村七重・木村玲子・内藤洋子・滝田美智子・島崎春美
打楽器――黒坂昇・細谷一郎・目黒一則（団外）
指揮――田村拓男（兼打楽器）
音楽監督・プロデューサー――三木稔

●プログラム

Aプログラム

一、新八千代獅子
二、扇の的
三、ファンタスマゴリア（長沢勝俊）
――休けい――
四、秋の曲（三木稔）
五、巨火（三木稔）注：東ベルリンでは「古代舞曲によるパラフレーズ」（三木稔）

Bプログラム（プログラム解説参照）

アンコール（ABプログラム共に）
トロイカ（ソ連）、ジェ・デュ・ボン・タバ（仏）、バッハ＝ロンド（ドイツ）、江戸子守唄、八木節

●日程・演奏地記録

九月二十三日　十時成田発
九月二十五日、二十六日　レニングラード公演
九月二十八日、二十九日　モスクワ公演
十月一日　フランクフルト・アム・オーダー公演
十月三日、四日、五日　ライプチヒ・ゲヴァントハウスオーケストラ公演「急の曲」に出演
十月八日、九日　パリ公演
十月十一日、十二日　東ベルリン公演
十月十三日　東ベルリン、（シャウスピールハウス）ゲヴァントハウスオーケストラと「急の曲」公演
十月十七日、十八日　ヘルシンキ・フィルハーモニア定期「急の曲」公演
十月二十日　十六時成田帰着

日出づる国のメロディー

ソビエトの音楽誌「ムジカリナヤ・ジーズニ」1985年1月号より

モスクワにおける演奏会(Aプロ)の論評

―― 前略 ――

彼等の演奏会はすべて独特なものである。音楽、楽器、衣裳、それに指揮をする田村拓男は木彫の小さな椅子に腰をおろしたままで指揮をする。アンサンブルは4つのパートからなっている。竹製の尺八とフルートを入れた吹奏楽器、弦楽に琵琶と三味線、打楽器には羯鼓と太鼓、その他に13弦の箏のグループである。そこで面白いのは日本の楽器すべてが音や外観にわが国の民族楽器とどこか共通点がある事である。箏はロシアのグースリを想い起すし、琵琶はウクライナのバンドゥラに三味線は中央アジアのルババの親戚である。衣装をまとった音楽家は女性が柔らかい色の着物、男性は重厚な黒である。しかし言うまでもなく演奏会で一番興味を惹いたのは音楽そのものだった。アンサンブルは古典伝説から古典楽器のためにアレンジされた現代小品までを含む5つのコンポジションで演奏された。この構成により聴衆の前に日本伝統音楽の歴史が通り過ぎたように思われた。

第一の構成は古い祭の歌で全員参加。これによって演奏家たちの繊細な、多彩な技術と腕前が紹介される。日本の音楽家たちは不可解な面持ち（多分、伝統からくるものであろう）であるが表面の冷静さの後に大きな情熱を伺がわせる。この構成は絹地に描かれた絵柄のように繊細さ、線の正確さ、と同時に柔かな色彩、単調と智恵を感じさせる。

「扇の的」の伝説が生れてから今日の聴衆の間には8世紀の隔りがある。「扇の的」は二つの敵対した民族の戦いについて、百発百中の勇敢な弓の射手の話である。上演はソリスト半田淳子が自分の琵琶伴奏で演奏した。彼女の声は大きくはないが表現力があり豊かに潤色されたメリスマをもってメロディーは軽く運び柔らかい琵琶の音色が声をよく支えて数世紀の息吹きを湛えた音楽物語りとして続いた。

コンポジション「ファンタスマゴリア」は現代の作曲家、長沢勝俊の作品であった。すべてのパートがアンサンブルのダイナミックな技術の可能性を表現豊かに展開していた。日本の楽器は単にカンティレーナに属しただけでなく音域の広いパッセージにも音楽家たちのアンサンブルのシンクロナイズにぴったりと合っている。これには田村拓男の正確な指揮が少なからぬ役割をなした。彼の両手はリズミカルに優美に「歌う」。しかし柔軟で控え目なゼスチュアの中にリズムの正確な感覚を覚える。

第二部は三木稔の作品に呈されていた。「秋の曲」は、尺八と箏の二重奏。魅力溢れる吉村七重は淑やかさだけでなく素晴らしい演奏技術で満場の好感を呼んだ。彼女の微妙な技術、飛ぶグリッサンド、調和のよい豊かな技巧を惜しみなく聴衆へ贈ったのである。表現力のあるヴィブラートを駆使する三橋貴風の尺八が良く歌うメロディーのために「秋」の背景を創りあげながら箏が吉村七重の指の下に優雅に哀しく鳴りひびいた。

1976年三木稔の作曲した宏大なコンポジション「巨火(ほて)」は曲目の総仕上げの役割を果した。作品の意図は「暗黒から光へ」とされており、不安な太鼓の打音、吹奏楽器の呻くようなイントネーション、弾かれる弦が恐しい核爆発の思い出を喚起しながら悲劇の雰囲気を創造する。大きなエピソードは打楽器に委ねられ、その音の妙技と多様な音色に仰天させられる。リリックな旋律は笛と尺八、光の到来を予言しているようである。そしてフィナーレは力強いトゥッティで尽きることのない踊りに厳粛な命と歓喜とが確立されて行く。

演奏会の終盤に熱烈な歓迎をした聴衆に対する感謝の印としてロシア民謡「トロイカ」を演奏した。日本の楽器を通して本物のロシアの広大と悲哀が会場へ流れた。音楽家たちは歌のメロディーが身近かなものとして理解されている様子で熱意のこもった演奏であった。四面の箏が優しく奏でる古い日本の子守歌がモスクワっ子の心にぴったりと合う。

演奏会の後で作曲家三木稔は次のように語った。「世界中で民族音楽への関心がもたれるのは偶然なことではなく、人々が不信の世の中に疲れ、音楽が彼らを救うことで互いに惹かれて行き、音楽は人民の心を識る力を与えるものであることを立証している。」

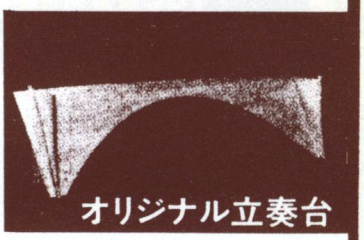
エフゲニー・エプシテイン

（松岡　節子　訳）

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏



日本音楽集団推薦

琴光堂和樂器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(792)8481

露秋銘 尺八

西　田　露　秋

〒794 今治市新谷新田甲７９８
電 話 0898-48-1097・1257

日本の音、

その磨きぬかれたひびき

都山、琴古型式共

蝴蝶

コチョウ

☆銘木尺八が生まれかわりました。

曲りがつき 天然竹 に優る
音律と耐久性

品番
0152
楓

標準価格
1.8尺 ¥22,000円

品番
0153
合竹

標準価格
1.8尺 ¥40,000円

新発売！

歌口黒水牛角入
一本一本製管調律
手造の味（1.3尺～2.3尺まで）

実用新案出願中

㈱ワダ楽器
富山県東砺波郡城端町信末
TEL (0763) 62-2348

誠和銘尺八

完全分業化等、近代的技術革新により、品質のバラつきを少なくし
コストダウンに成功。
普及管から中級高級管まで、各方面から高い評価を得ております。

誠和音芸　　代表　坂田誠山

〒156 東京都世田谷区桜３－18－18　ＴＥＬ03－420－0483

◆創立二十周年記念コンサートを振り返って

ヴァラエティあり収穫もあった二十周年記念シリーズ

富樫　康

昨年は日本音楽集団創立二十周年ということで、去年の五月から今年の一月にかけて六回にわたって記念シリーズ音楽会が、定期演奏会（第82回→87回）の形で行なわれた。それらは多彩な催しであったが、今は機関紙の「邦楽現代」もなくなり、ほかの音楽雑誌にも度毎批評されたわけでもないので、この機会に六回の催しに演奏されたもののうち、特に初演された曲目についてのべることにした。

まず第83回定期（6月11日ａｂｃ会館）から入ろう。はじめに中村滋延作曲の《花と風》であるが、これは私としてはたいへん気に入った曲である。この曲は音楽一般の形である主題と変奏といった作り方でなく、トーンクラスターという新らしい形の様式で、この場合尺八2、箏3、打楽器2といった七人の奏者が各々バラバラに好き勝手な断片音を（一定の指示のもとに）演奏して、全体がかもしだす集合体の音群を鑑賞する音楽であった。それは各々がランダムに奏する音達の乱れが、あたかも森の木の葉から不規則に滴りおちる雨垂れのような効果を呈して、従来の規則や習慣でしばられた音楽の構図とは全くちがった、バラバラな音の集合と連続がもつ魅力といったものにとても新鮮さを感じたのである。

伴谷晃二作曲の《行》は、かつて武満徹が尺八と琵琶の《エクリプス》を作曲して大きな話題となったが（これまでにきいた中で最も感動した音楽と評する七〇才の評論家もいる）伴谷もそれを手本にして、篠笛（藤崎重康）と琵琶（半田淳子）で《行》を作曲したとみてよいだろう。勿論篠笛と尺八とではかなり異った性格の楽器であるが、それが《エクリプス》ほどの成果はあげなかったとしても、かなりの成果はあった。だが篠笛は尺八のような魔力的な力にはなりえないのである。

永瀬博彦の《坐楽》はなかなか楽しめる曲だった。これは十人の管弦打楽合奏だが、音楽全体がもつ、のんびりとした大陸的な悠長さに、いたく心をひかれた。これは現代に作られたものとはいえ、心は古代に向いており、昔人がいかに自然と心の平和を愛したかを如実に想像できるような音楽であった。因みにこれは第四回日本音楽集団作曲賞第一位入賞曲である。

吉松隆作曲の《雨月譜》も《エクリプス》が前提にあって出現した曲といえるだろう。ただしこれは尺八と琵琶でなく、尺八（三橋貴風）と十七絃（木村玲子）という組合せである。そして箏はエクリプスの琵琶的な存在に近づこうとしている。だから箏は一般的な綺麗事に納まっているのでなく、かなり

「纏」新実徳英氏指揮　83回定期

二十周年記念シリーズ

一九八四年　五月一六日　第八十二回春の総合定期演奏会
六月一一日　第八十三回定期演奏会（室内楽の夕べ）
七月　六日　第八十四回定期演奏会（飛び出せ稲田康君）
九月　五日　第八十五回秋の総合定期演奏会
一二月　五日　第八十六回定期演奏会（邦楽器は世界をめぐる）
一九八五年　一月二八日　第八十七回定期演奏会

凄みのある技巧的表現を行っている。尺八も勿論そうである。尺八の三橋は始め洋楽器から出発した人のせいか、音楽がキチンとしていて綺麗である。シャープで切れ味がよく、通りのよい音である。横山勝也が山武士的なところがあるのに対して、三橋は都会から出現した尺八といえよう。ともあれ《雨月譜》も今後数多く演奏してほしい曲である。

新実徳英作曲の《纏》は管絃打計十一人編成の大曲で、作曲者が指揮をしたが、これもなかなかよくできた曲であった。かなり輻輳した曲だが、それが整然と整理されており、複雑なモダニズムに徹しているが、キチンとできている。むしろできすぎているというべきだろうか。それだけに音たちがぶつかり合い、火花を散らすようなスリル感がないといえばいえるのである。

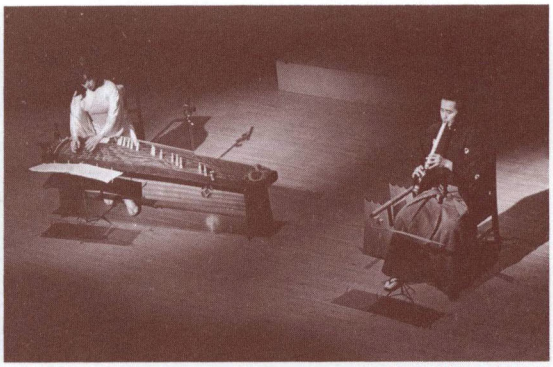
いずれにせよ、この日の五作品はそれぞれが新しい魅力をもっており充実していた。

第84回定期（7月6日、abc会館）で演奏された池辺晋一郎作曲《雨の向うがわで》はとても変った曲で興味があった。これは打楽器奏者四人が演奏する、とても難しい実験的なリズム遊びのような曲だった。それは二拍子とか四拍子とかで割り切れるような悠長なリズムでなく、油断も隙もないような緊張感にみちたリズムのやりとりで、昔の打楽器奏者だったらおそらく演奏不可能だったかもしれない。実演する方もスリル満点だが、きく方も緊張させられた。そして終ったときは呆気にとられた。

第85回定期（9月5日、朝日生命ホール）での田中友子作曲《桜川》は九人の管絃打楽器（指揮・稲田康）による曲だったが、この人の作曲技法はとてもすぐれていた。特に対位法の才に長けている。ということは構成が確りしていることだ。ただ欠点としては使われているテーマ（特に尺八の）に魅力が欠けているのが残念だった。（作曲賞第一位受賞作）

佐藤敏直の《青のモチーフによるコンポジション》（17人の奏者と田村拓男の指揮）は作曲者の熟達ぶりをうかがえることができた。これは佐藤の作品中の

「人形風土記第二番」85回定期



「雨月譜」83回定期

秀作の一つに数えることができるだろう。豊かな音楽性、多彩なヴァラエティー等々の点で。かなり長大な曲だが、コンポジションとしての立派な形態を備えている。

中村八大の《秋のコンチェルト》（17人編成・指揮田村拓男）はポピュラー音楽の作曲家である氏が、こうしたシリアスな創作活動の場に出品できる作品を書いたのは喜ぶべきことである。しかもそれが堂々と他の作品に伍して恥かしくない内容であったのだから。やはり曲想は難解でなく、誰にも理解できるよい意味での大衆性をもっている。またそれがこの人のとりえでもあるのだ。才能のある人だと思った。

長沢勝俊作曲組曲《人形風土記・第二番》が当日初演されたが、もう集団を自己の体質の一部のように（いや全部かもしれない）過してきた長沢にとって、集団の性能は知り尽しての作曲だから、思いのままに作曲できるわけである。またそれだけに聴く側も安心してきけるのである。この作品も彼の優しい人柄や、日本の風土を愛する気質がよく表れていた。なおシリーズ中、長沢作品は六曲を数え、三木作品は無かったが、それはこの六月の一晩をオール三木プログラムで埋めたためだろう。

第87回定期（85年1月28日、abc会館）で初演した内田とも子作曲《木もれ陽》は、笛、尺八、三味線、琵琶、二十絃、十七絃、打楽器と七人の奏者による合奏曲で、解りやすい、平和にみちた曲だった。いかにも女性らしい、けがれのない、浄らかな音楽で、また寸分の隙のない完璧さをもっていた。しかしそれでも私には充たされないものがあった。それは曲想がフラットなあまり、はりつめるものがなく、また紆余曲折にも乏しかったせいかもしれない。

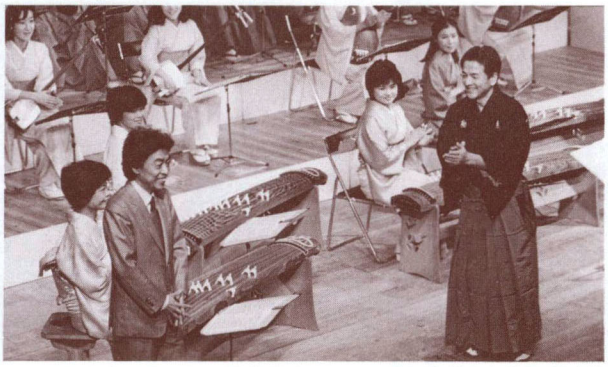
以上のほかにも際立った作品が数々あったのは言うまでもないし、聴衆の一人一人にとっては前記以外に、またそれ以上に心に残った作品や演奏があったことも推測できるのである。そして集団のアンサンブルは、入念なリハーサルを経て演奏会にのぞんでいることも実感したのである。

日本音楽集団の二十年目

長尾一雄

日本音楽集団が創立二十周年記念コンサート・シリーズを第八十二回の春の総合定期で開始したのは一九八四年五月十六日で、この同じ五月に野坂恵子は松の実会六十周年の記念演奏会に主宰者の一人として出演し、三木稔はオペラ「あだ」の日本初演を行っている。野坂も三木も日本音楽集団を離れ、現代邦楽シーンでのそれぞれの活躍をいったん休止しようという時期にあたり、集団としてはポスト野坂、三木時代をむかえる時にあたって、二十周年の幕が切って落とされたのである。

五月十六日の演奏会のプログラムは、「ディヴェルティメント」(佐藤敏直)、「胡弓三章」(牧野由多可)、「尺八三重奏曲」(清瀬保二)、「郢曲・鬢多々良」(伊福部昭)の四曲である。ここには新曲はなく、集団がかって演奏した曲のなかから集団外の作曲家の作品をピックアップしてプログラムとしたもので、このうち清瀬の「尺八三重奏曲」は一九六四年十一月十七日の第一回定期の時に演奏された曲である。その同じ第一回の時の、三木の「くるだんど」がはらんでいた未完成の熱気と比較すると、現在の日本音楽集団の演奏は当夜の「鬢多々良」の演奏に代表されるように、明るくスマートで、細部まで良質の音楽的教養によって磨かれた楽しい音楽になっている。そのことが、三木の「日本楽器のあらあらしさ」ということばをひとつのコンセプトとして出発した当時と現在の状況との間の微妙な差異を語る要素を持つことは、私を含めてすでに多くの人々の指摘するところのようであるが、そのことを一応認めた上で、私は当夜の「尺八三重奏」の演奏者である福田・藤崎・田嶋の三人に拍手を贈りたい。それは「胡弓三章」のソリスト畦地・砂崎(現在団員外)・杜の三人に対しても同様である。彼等はアンサンブルの内部でのソロイストとして、すぐれた感性と技能とを示した。



「秋のコンチェルト」演奏後、ステージに立つ中村八大氏 85回定期

初期の日本音楽集団に、私は「アンサンブル」で、はなくて「ゾリステン」であるという評を贈った。それは決して合奏技術の低さを言ったのではなく(合奏技術はその当時も相当に高かった)、一騎当千という古いことばがそのままふさわしいような独奏家の天才が数多く居るということを言ったのだった。今その人たちの多くは集団を去った。横山勝也が最も早く、野坂恵子が最も最近に姿を消した。宮田耕八朗は今も残って重みを感じさせる。そのような布陣のなかで、かって新人としてのういういしさが注目された吉村七重や三橋貴風が集団の中心的な印象を与えている。初期のコンセプトの退潮と、この陣容交代とは、どうしても同時に目に入って来る現象であろう。横山から野坂に至る「ゾリステン」が集団を去ったのはいかなる事情によるかを私は全く知らないのであるが、ソロイストとしての天才たちは常に多忙であるということも関係があろう。しかし残された人たちが天才でないというわけではない。日本音楽集団は今では合奏団全体として、良質で、魅力的で、行き届いた、合奏団の天才になった。それは、今回この原稿を書くにあたって二十周年の六つのコンサートの録音を通して聴いてみて、あらためて感じたことである。

それにもかかわらず、私が日本音楽集団に「アンサンブル」でない「ゾリステン」の性格を見たいと思うのは、日本の楽器の負っている宿命のようなものにひかれてのことではないだろうか。日本の楽器は、それが本来合奏のために発明された十七絃の場合においてさえ、独奏楽器として際立ちたいという思いをあらわしていると、私には思えてならない。ヴァイオリンのように、いくつかの声部にわかれて合奏の相乗効果を聞かせるのに適している楽器は、厳密な意味では日本に存在しないのではなかろ

うか。古典の世界で箏と三絃の合奏が、和音的な調和よりは、音と音との戦いやせめぎ合いを感じさせるのと同様に、多くの日本楽器が与える音も、ふっくらとしたなごみを感じさせるよりは、音の衝突、それも明るい陽性の衝突を感じさせる。いわば日本の楽器は一挺一挺が個性を主張するのである。個性主張の民族性を持つ西欧に和音が発達し、没個性という特徴を持つかと疑われる日本での合奏がこのように個性主張的であるのは非常に興味深い現象である。

前に述べた三人の尺八奏者や、畦地たちの胡弓奏者がそうした個性主張者の一翼を集団の内部で占めているかどうかということになると、私は畦地は充分に個性的であると思うが、尺八奏者たちはまだ存分に個性を発揮する境地には至っていないと思う。尺八奏者に限ったことではないが、この人たちが個性的奏者として確立した時に、集団の第三期十年は完全に音楽性を獲得するのではあるまいか。それは他のパートの奏者たちについても言えることである。現在の集団の演奏家たちは、一般的に言って自己主張が不足している。前代の言わば一匹狼たちが、その一匹性に徹することによってむしろ集団を去らねばならなかったということは残念なことであるが、それほどの個性たちが、初期集団の個性を支えていたことを思うと、あの個性たちの、現在の団員による再現こそが今後の集団に望まれるところであると思えてならないのである。

ところで、二十周年シリーズのなかで最も大きな意味を持つ演奏会は、今回テープで聴いたところによると、どうやら私の実際に聴くことのできなかった第八十三回「室内楽の夕べ」と第八十四回定期とであるように思える。八十三回では中村滋延の「花と風」、伴谷晃二の「行」、永瀬博彦の「坐楽」、吉松隆の「雨月譜」、新実徳英の「纏」が演奏された。これらの作品のなかには、初演の時あまり印象的だと思えなかった曲も含まれているが、このように一堂に会して演奏されると、おのずから現代邦楽初期の、

作曲賞第一位受賞作「桜川」表彰を受ける田中友子女史　85回定期

洋楽系作曲家が未知の邦楽器に対して貪欲な好奇心を発揮した時期とはちがった安定した音楽意図が感じられ、そこには未来に対する投機的な熱意はないかもしれないが、邦楽器をそれなりに研究した、熟した何物かを感じることができ、洋楽系作曲家の間に邦楽器が定着しつつある印象を得ることができる。そのことによって私が、第八十五回定期のパンフレットに寄せた、邦楽系作曲家作品をむかえよという「提案」を撤回するわけではないが、邦楽器楽派とも言うべき静かな一派が、楽壇の一部に存在し得るという感触を与え得たことは、八十三回定期の大きな意義であると思う。

八十四回定期では二人の新人がクローズアップされた。一人は指揮の稲田康、一人は太棹三味線の田中悠美子である。稲田の指揮は、テープで聴いた限りではかなりに洋楽的味わいがあり、それは彼の師事した人々、特に山田一雄の影響が濃いと思われるが、この傾向に、田村拓男の、邦楽器個々と語る、いわば邦楽内部的な知性が身について来れば非常に有力な指揮者としての活躍が可能であると思われる。田中は女流義太夫家野沢錦鈴としての活躍と二重の努力を続ける人であるが、現代邦楽家としての力量の条件は古典家としての技倆がなければならぬという私の持論は、当夜の牧野由多可「太棹協奏曲」の演奏によっても充分裏付けられると思えた。

全四曲を初演曲(田中友子「桜川」、佐藤敏直「青のモチーフによるコンポジション」、中村八大「秋のコンチェルト」、長沢勝俊「人形風土記第二番」)で埋めた第八十五回、「邦楽器は世界をめぐる」と題して世界各国の歌やクラシック曲の編曲作品を主とした第八十六回、地味なソロイストである琵琶の田原順子を印象づけた第八十七回、そして中堅メンバー五人の「わ」を最終曲とした八十八回と、集団はここで米寿をむかえた。長沢勝俊の温雅だが芯のあるイニシアティヴのもとで、二十一年目を迎える集団の未来は、平坦ではないにしろ明るいと思われる。四十周年、一七八回目の定期が待たれる。

日本音楽集団アンサンブルの魅力を求めて
――後援会〝ニッポニアメイツ〟発足

代表幹事●工藤秀也

日本音楽集団は昨年、二十周年記念演奏会を成功裡に終え、いよいよ気力、体力十分の青年として、二十一年目を迎えております。

この新たな出発に先駆け、本年二月に後援会「ニッポニアメイツ」が発足いたしました。若干の経緯を申しますと、昨年の二十周年記念演奏会に際して、是非とも成功させようと有志が集い、集団と交流会をもったり、演奏会でアンケートをとったり、また、自主的にミニ・コンサートを開催して、集団の演奏の魅力に一人でも多く触れていただこうと努めてまいりました。こうした活動をしているうち自然に後援会をという機運が盛り上がりました。

さて、ニッポニアメイツが発足して驚いたことは集団のファン層の厚さと広さです。会員になっていただいた方を見ますと、若い人から熟年まで、北は北海道から九州まで、二十五もの都道府県のファンの方からご入会をいただいております。これは集団が二十年間に全国にファンをつくってきたなによりの証明であろうと思います。こうなりますと私達、ニッポニアメイツの世話人がなんとなく東京を拠点として、まずは点から点とファンを拡大していこうなんていう考えを越えて、いかに全国的規模の活動をするかが問われているように思います。集団の演奏が国内・国外において高い評価を受けていることを考えれば当然のことなのですが、やはり、嬉しい誤算です。ニッポニアメイツの活動は、こうした厚いファン層に応えるべく、創意工夫して、頑張ってまいりたいと思いますし、集団と、車の両輪のようになって、集団の発展を期し、ファンとして、集団の音楽を真に共有する関係を深めてまいりたいと念願しております。

幸いにして、ニッポニアメイツの活動に対して、集団を発足当初から育て、今、世界的に活躍している作曲家三木稔、ポピュラー界の大御所中村八大、ニッポニアメイツの活動の拠点でもあるアコスタディオのオーナー赤星昭生、演出家の高橋清祐諸氏に顧問をお引受けいただき、いろいろとアドバイスをいただけることを心強く思っております。

最後に、皆様方の温かいご支援をお願い申しあげニッポニアメイツの発足のご挨拶といたします。

ニッポニアメイツ発足パーティー

二月二十日、原宿アコスタディオに於いて、日本音楽集団後援会〝ニッポニアメイツ〟の発足パーティーが開かれました。団員の手料理やワインサービスまで心のこもった御馳走が並べられ、中村八大氏の楽しいお話し、集団のめったに聞けないコンサート、中身は長沢勝俊自らピアノを弾いての「絵馬」、宮田耕八朗による魔法の壺での「遠くへ行きたい」などが演奏され、お客さんもご満悦、中村八大も大喜び、最後は自らのピアノ演奏まで飛び出し、熱っぽく発足を祝いました。

竜勝堂（りゅうしょうどう）

手造り

琴・三味線　専門

附属品・琴糸〆・
三絃皮張・貸琴

倉持楽器店

営業時間　午前9:30～午後6:30
日曜休日　土曜9:00迄

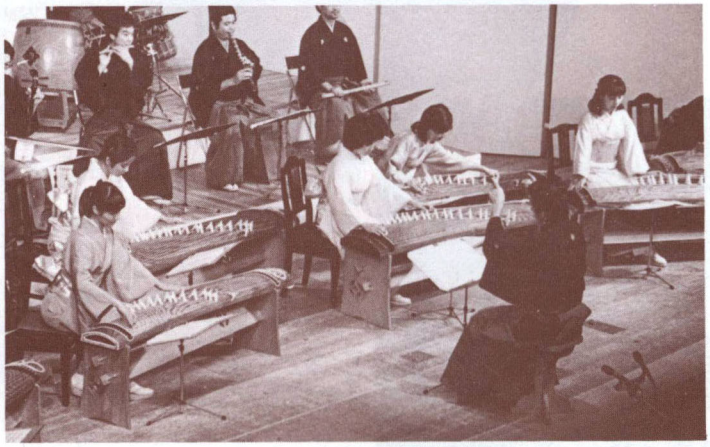
●先生をご紹介致します。

電話（店）0473-45-5807
0471-63-3864

クリ甲など、ならないお琴もなるように修理出来ます。

第一印象、大切に。

初めての邦楽器。初めての体験。
どんな印象を持ったかな？



指揮者が腰かけた!?

びわの音ってへんなの！

木魚に大爆笑！

わかりやすい楽器解説

楽しい日本のメロディー、世界のメロディー。

心に残るオリジナル作品。

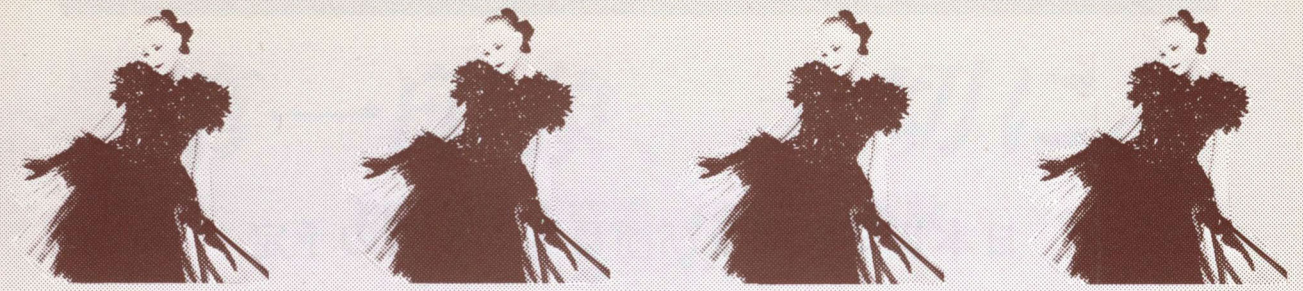
日本音楽集団学校公演

未来の文化を担う子どもたちのために

学校公演プロジェクトチーム

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

6月24日(月)	「グループ玄コンサートNo.3」に水谷雅康、山本哲子が出演	ルーテル市ヶ谷
6月26日(水)	新発田市にて学校公演	
6月27日(木)	天童市中学校鑑賞会	天童市民会館
7月4日(木)	カワイ音楽教育シンポジウム関東大会で日本音楽集団演奏会	伊東市観光会館
7月8日(月)〜13日(土)	長崎県（五島列島含む）巡回学校公演	
7月12日(金)	田嶋直士尺八の世界（第5回リサイタル）	梅若能楽学院
7月20日(土)	半田淳子琵琶の世界	飯能市市民会館
7月31日(水)	NHK-FM〈邦楽のひととき〉(11時15分)で「桜川」(田中友子作曲)放送	
8月3日(土)	反核コンサートに出演	日比谷公会堂
9月上旬	秋田県巡回学校公演	
9月3日(火)〜5日(木)	琵琶と語りによる「雨月物語」を半田淳子と劇団民芸の稲垣隆史氏(団友)とが共演	銀座博品館劇場
9月15日(日)	名古屋にて「日本音楽合奏フェスティヴァル」	
9月25日(水)〜28日(土)	山形市小学校鑑賞会	山形市民会館
9月26日(木)	第90回定期演奏会	芝abc会館ホール
9月30日(月)	新庄市学校鑑賞会	新庄市民文化会館
10月5日(土)	横浜市緑区主催により「田原順子の琵琶を聴く会」(仮称)	
10月15日(火)〜16日(水)	鶴岡市・酒田市にて学校公演予定	
10月28日(月)〜11月2日(土)	宮崎県巡回定時制高校鑑賞会	
10月28日(月)	横須賀市立大津中学鑑賞会	
10月29日(火)	川崎中央ライオンズクラブ主催により、市民のための日本音楽集団演奏会	川崎産業文化会館
11月3日(日)	羽生市の主催により日本音楽集団演奏会	羽生市産業文化ホール
11月4日(月)	文化庁芸術祭公演熊本公演で日本音楽集団演奏会	熊本県立劇場コンサートホール
11月7日(木)	第3回半田淳子琵琶リサイタル	朝日生命ホール
11月20日(水)〜28日(木)	第11回関西定期演奏会および西日本地方演奏会（文化庁助成）予定	
11月29日(金)	前橋高校鑑賞会	
12月2日(月)	第91回定期演奏会	朝日生命ホール



LE PARFUM CRÉÉ PAR SERGE LUTENS

誰も、見たことのない、黒

ノンブル ノワール

パルファム 30,000円・18,000円　オードパルファム 15,000円

SHISEIDO

PARIS

安心は、ワイドに
ワールドに。

※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

なぜか、
いい予感。

安田火災の積立女性保険
「マイセルフ」新発売

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画
RM 小笠原　明男　オフィス ☎ 937-0547
安田火災海上保険㈱板橋支社 ☎ 962-7311

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

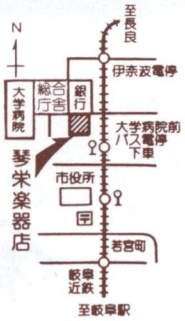
●東海一の実績を誇る店

◇1階・店　舗
◇三味線、尺八、舞扇　多数陳列
◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜　多数取揃えてあります。

◇2階・お琴展示場（ミニ舞台付）
◇お琴、柾目琴、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります。
◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい。

〈お買い求め〉　クレジット販売をご利用下さいませ。（最高36回払）
〈パンフレット〉無料送付致します。

御琴・三味線専門
琴栄楽器店
代表・増田康壽
〒500 岐阜市司町九（大学病院前）
TEL〈0582〉㊸ 1826㈹



プライバシーを包んで
お運びします。

どうぞ、お気軽にご相談下さい。

●演奏旅行に出るが、楽器類の輸送は？
●地方公演の際、舞台装置などの輸送は？
●招待する外人団体客のバゲージの取扱いは？

ダイホー何でも相談室
☎大阪(06)327-5611

大宝運輸株式会社

本社　大阪市東淀川区南江口3-4-48
〒533　Tel.06-327-5611(代)
東京　東京都大田区西糀谷4-12-2
〒144　Tel.03-743-3252(代)

●三味線の事は——
●日本で唯一人の総合——

三味線師
浜松屋　三味線店へ

●皮より棹まで手造り自家製造
●張替は30～50%割引
●技術最高、値段最低の店

東京都小金井市本町3-8-9(〒107)
☎0423-85-5319

皇室に献上の栄に輝く
使う人の誇り

牧本の俞印
翠、三絃

東京　・　福山
牧本楽器株式会社

日本音楽集団1985年前半の主な活動記録

1月6日(日)	日本楽器銀座店でミニコンサート	
1月10日(木)	羽村第一中学鑑賞会	
1月11日(金)	福山グランドホテル「ローズパレス・ニューイヤーコンサート」で日本音楽集団演奏会	
1月12日(土)	第3回サロンコンサート	原宿アコスタディオ
1月23日(水)	国立国会図書館文化祭に出演	
1月27日(日)	横浜市「緑区音楽祭」で日本音楽集団演奏会	緑区公会堂
1月28日(月)	第87回定期演奏会	芝abc会館ホール
2月7日(木)	第10回関西定期演奏会	大阪厚生年金会館中ホール
2月9日(土)	碧南市にて日本音楽集団演奏会	碧南市文化会館
2月20日(水)	後援会「ニッポニア・メイツ」発足パーティー	原宿アコスタディオ
2月23日(土)〜24日(日)	春日井市「500の会」で日本音楽集団演奏会	春日井市東部市民センター
3月27日(水)	慶応病院職員組合コンサートに日フィルクワルテットと出演	北里講堂
4月1日(月)	第4回サロンコンサート	原宿アコスタディオ
4月4日(木)	町田市の主催により日本音楽集団演奏会	町田市民ホール
4月21日(日)	武蔵野中央ロータリークラブによる「武蔵野市青少年音楽祭」に出演	武蔵野市民文化会館
4月24日(水)	第88回定期演奏会	芝abc会館ホール
5月15日(水)	東京尺八合奏団演奏会に出演	芝abc会館ホール
5月21日(火)〜24日(金)	鳥取県巡回学校公演	
5月30日(木)	鶴嶺高校鑑賞会	茅ヶ崎市民文化会館
5月31日(金)	東京女子学院鑑賞会	
6月10日(月)	万博「日本の日」式典およびジャパンショーに出演(NHK・TV同時中継)	万博会場エキスポプラザ
6月12日(水)	大磯町国府小学校鑑賞会	
6月20日(木)	第89回定期演奏会	朝日生命ホール

三木稔作曲オペラ〈じょうるり〉世界初演

三木の三つ目のオペラ〈じょうるり〉が、米国のセントルイス劇場で世界初演された(五月三十日～六月二十三日)。第一作の〈春琴抄〉は地歌・箏曲、次の〈あだ An Actor's Revenge〉は歌舞伎の世界、そして今回は人形浄瑠璃を扱うという、近世の伝統芸術に関連した壮大なオペラ三部作が完成したことになる。

この作品は人形浄瑠璃の出来事を扱っているとはいえ、脚本・作曲とも全編オリジナルで借用は一切ないとのこと。その点で他の二作と異り、興味のあるところ。日本での上演が待たれる。

台本・演出はコリン・グレアム。キャストは全米より選ばれた若手によっており、演奏はセントルイス交響楽団、日本からは坂田誠山(尺八)、吉村七重(二十絃箏)、田中悠美子(太棹三味線)が参加している。

〈じょうるり〉初演第一報

五月三十日に米ミズリー州セントルイス・オペラ劇場で初演された三木稔作曲〈台本コリン・グレアム〉のオペラ〈じょうるり〉は大成功をおさめました。チケット発売後、四回分のチケットはすぐに売り切れましたが、初演の好評にともない追加公演が急きょ決定されました。

セントルイスは緑ゆたかで、ゆったりした町並み……、練習の段階から毎日お客がつめかけ声援を送ると云った、町をあげてのオペラ公演だったそうです。集団からの参加メンバーの一人、坂田誠山からの便りによると三人の主役のアリアのすばらしさ、三木稔のすばらしいメロディー、尺八の出番は少ないけれど効果的な使い方がされており、聴衆がわざわざ賛辞をのべに来てくれたり、三木稔が二年を費して精魂傾け書きあげたオペラの初演に立ち合えた感動を伝えていました。また集団のメンバー三人とオーケストラの数人とで特別演奏会をもうけることになったそうです。

昨年の三賞受賞者

旧聞にすぎますが、集団恒例の忘年会で昨年活躍した団員を顕彰する三賞受賞者と受賞理由は次の通りです。

○殊勲賞――畦地慶司

あなたは、本年行われた北日本公演において、北海道担当プロデューサーとして、誠心誠意尽されました。地方公演の実現には常に困難がつきまといますが、地元関係者の信頼を得、大量動員を果たし、経済的にも収支償う結果をもたらしたことは、賞賛に値します。その功績を称え殊勲賞を贈ります。

○敢闘賞――福田輝久

あなたは、日頃から団員としてフォア・ザ・チームの姿勢を貫ぬき、日常業務にも協力を借しみませんでした。また、サロンコンサートのプロデューサーとしても追加公演を設ける程の人気番組を企画し、これからの聴衆拡大運動の盛りあげに貢献しました。あなたの、目立たぬところでも労力を惜しまない姿勢は、今の集団にとって大きな力です。ここに敢闘賞を贈り一層の活躍を期待します。

○敢闘賞――田原順子

あなたはこの一年に限らず、出演回数の最も多いメンバーのひとりであり、特に啓蒙的な演奏活動にはなくてはならない存在として団を支えてこられました。また聴衆とのふれあいを大切にするコンサートを独自に続けられ、琵琶音楽の普及と、日本音楽鑑賞の機運を醸成することに貢献する等、演奏面での着実な向上と相俟って、進境著しいものがあります。ここに敢闘賞を贈り一層の活躍を期待します。

このほか創立二十周年に際し「成功させる会」を組織し、新たな聴衆の掘り起しのため卒先して運動を展開され、後援会活動の基礎を作られた**工藤秀也**氏に感謝状が贈られました。

また長年、音楽監督を務め、数々の名曲をつくり、海外公演のプロデューサーを担当するなど、団への絶大なる功績に対して**三木稔**氏に特別功労賞が贈られました。

また**田村拓男**にも春秋の総合定期演奏会の貢献に対して功労賞が贈られました。

団員動向

三木稔ら団友へ

団の創立以来、音楽的・理論的な面での実質的なリーダーとして団を引っぱってきた**三木稔**が、昨年の暮で団を退きました。今後はオペラの作曲や、よりフリーな立場で作曲活動に邁進することになりました。

また創立団員として、殊に十七絃の啓発をし、新しいアンサンブルの土台をどっしりとささえ、創立当時の運営や音楽の基盤を築く上で絶大な功績のあった**宮本幸子**が、自らが育った正派邦楽会の活動に専念するため今年三月に退団しました。

野坂恵子は団の首席独奏者として団内外、国内外での活躍は周知のところ。特に三木稔と共に行なった二十絃箏の開発は、日本の伝統音楽の世界に革新的な大きな流れを引き起しました。その野坂が昨年、世に演奏活動休止宣言を発表し、山ごもりを継続中ですが、集団も今年三月で退団することになりました。

日本音楽集団をおこし、その後を支えて来たこれら創立団員たちが退いて行くことには一抹の淋しさがありますが、身近な友人であることには違いはなく、今後は団友としてお互いに協力し合うことになりました。

白根きぬ子、ロンドンへ

箏の白根きぬ子は夫君の海外転勤にともない四月からロンドンへ転居しました。

木村重雄氏逝く

日本音楽集団のよき理解者であり、集団のプログラムなどにたびたび寄稿されていた音楽評論家の木村重雄氏が、ご病気のため六月四日亡くなられました。

つつしんでお悔やみ申上げます。

●日本音楽サービス扱いのレコードと楽譜●

●出版楽譜

長沢勝俊作品
- ○尺八・箏による「萌春」／400円
- ○箏四重奏曲／600円
- ○詩曲・まゆだまのうた／650円
- ○二つの田園詩／500円
- ○楽しい練習曲集「箏と尺八」初級編／750円
- ○楽しい練習曲集「箏と尺八」中級編／700円

三木稔作品
- ○四群のための形象／500円
- ○箏 譚詩集Ⅰ／300円
- ○孤響・ソネットⅠ／500円
- ○天如・佐保の曲・竜田の曲／800円
- ○夕影の詩・箏双重・雅びのうた／700円
- ○松よ（パート譜は別）／900円＊
- ○千絵の曲／400円＊
- ○箏 譚詩集Ⅱ／1200円＊
- ○尺八のためのソネットⅡ－Ⅴ／1200円＊
- ○序の曲／2500円＊
- ○破の曲／2500円＊
- ○急の曲／4000円＊

●レコード

- ○組曲〈人形風土記〉・子供のための組曲　長沢勝俊作品集――2200円R
- ○萌春　長沢勝俊作品集／二つの舞曲・箏四重奏曲・詩曲・萌春――2200円R
- ○まゆだまのうた　長沢勝俊作品集／三味線協奏曲・颯踏・二つの田園詩・まゆだまのうた――2200円R
- ○錦木によせて　長沢勝俊作品集／春三題・尺八協奏曲・錦木によせて・飛騨によせる三つのバラード――2200円R
- ○めばえ　三木稔選集Ⅰ／「四季」ダンス・コンセルタントⅠ・芽生え・奔手・夕影の詩・竜田の曲――2500円CA
- ○巨火・わ　三木稔選集Ⅱ／巨火・わ――2500円CA
- ○急の曲　三木稔選集Ⅲ／急の曲――2800円CA
- ○歌楽　ベロ出しチョンマ・八郎物語　三木稔選集Ⅳ／ベロ出しチョンマ・八郎物語――2800円CA
- ○野坂恵子・三木稔「二十絃箏の世界」／破の曲・春琴抄序曲と春鶯囀・白燿・まぼろしの米・天如・佐保・竜田・箏譚詩集Ⅱ・ひなぶり・東から――10000円CA
- ○野坂恵子・二十絃箏の世界Ⅱ／紡ぐ（池辺晋一郎）・芽生え（三木）・秋の曲（三木）・ワールズ（マカイ）・グリーン・スリーブス――2500円CA
- ○野坂恵子・二十絃箏の世界Ⅲ（三木稔選集Ⅲ）／鎮魂協奏曲・箏譚詩集Ⅰ・華やぎ――2500円CA
- ○三木稔作品集Ⅰ／古代舞曲によるバラフレーズ・凸――2000円CO
- ○三木稔作品集Ⅱ／ソネット・箏譚詩集Ⅰ・四群のための形象――2000円CO
- ○三木稔作品集Ⅲ／序の曲・雅びのうた・天如・孤響――2000円CO
- ○三木稔：凸・古代舞曲によるバラフレーズ／1500円CO
- ○雅（みやび）／華やぎ（三木稔）・六段の調・みだれ・新八千代獅子――2500円CO
- ○GAKU／樹冠（長沢）・四大（入野義朗）・凪（藤田正典）・プレリュード（新実徳英）――2800円KO
- ○野坂恵子古典箏曲集Ⅰ－Ⅴ／各2000円CO　○日本の楽器入門――3000円CO

★上記のレコード・楽譜の販売の仲介をしますのでご希望の方は下記の日本音楽サービスへご連絡下さい。
また、コピー楽譜もお頒けしています。

★楽譜の価格の後、無印は全音版、＊はみきねん・コレクション版、レコードの価格の後、RはRVC版、COはコロムビア版、Vはビクター版、GAはカメラータ版です。

★この他にカセットテープもあります。詳細はお問い合わせください。

日本音楽サービス　東京都渋谷区笹塚3－17－1滝沢ビル302 電話03－378－4741

日本音楽集団 Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

代表　長沢　勝俊
副代表　坂田　誠山
運営委員長
事務局　奈良　義寛（局長）
　　霜島　素子
監事　芹沢　英雄
マネージメント協力
株式会社　ジャパン・アーツ

団員連名

〈正団員〉

望月　太八（笛）
西川　浩平（笛）
宮田耕八朗（尺八・笛）
坂田　誠山（尺八）
三橋　貴風（尺八）
福田　輝久（尺八）
田嶋　直士（尺八）
藤崎　重康（尺八・笛）
竹井　誠（尺八・笛）
米澤　浩（尺八）
畦地　慶司（胡弓・作曲）
野口美恵子（三味線）
太田　幸子（三味線）
加藤　洋（三味線）
半田　淳子（琵琶）
田原　順子（琵琶）
坂井　敏子（箏・三味線・胡弓）
白根きぬ子（箏）在ロンドン
吉村　七重（箏）
花房はるえ（箏・三味線）
宮越　圭子（箏）
木村　玲子（箏）
内藤　洋子（箏）
滝田美智子（箏）
尾崎　太一（打楽器）
藤舎　成敏（打楽器）
堅田　啓輝（打楽器）
高橋　明邦（打楽器・指揮）
黒坂　昇（打楽器）
細谷　一郎（打楽器）
田村　拓男（指揮・打楽器）
稲田　康（指揮）
長沢　勝俊（作曲）
内田とも子（作曲）
中島　隆（楽器係）

〈準団員〉

素川　欣也（尺八）
水谷　雅康（尺八）
水川　寿也（尺八）
蓑田　司郎（三味線）
田中悠美子（三味線）
山本　哲子（三味線）
山田まゆ美（琵琶）
熊沢栄利子（箏）
松本　和美（箏）
佐藤　里美（箏）
小林恵美子（箏）休団中
内藤　久子（箏）
大畠菜穂子（箏）
島崎　春美（箏）
佐藤由香里（箏）
岡田　寿子（箏）

〈研究団員〉

中野はるな（箏）
山田　明美（箏）

〈特別留学生〉

杜　菊衷（胡弓）

名誉団員　山田美喜子
協力団員　伊藤　惣一
地方在住団員　塚本　早苗
　　田嶋恵美子

昭和六十年六月現在

〈賛助会員〉

（有）琴光堂和楽器店
（松本・諏訪・東京）

〈団友〉

青木　誠　中村　八大　宮本　幸子
秋浜　悟史　野口　鎮　元橋　康男
荒谷　俊治　佐藤　敏直　矢崎　明子
稲垣　隆史　芝　祐靖　柳家小三治
小田切清光　清水　義矩　横山　勝也
川崎　祥悦　芹沢　英雄　ディヴィッド・ロープ
菊地　悌子　高野　文子　ディヴィッド・ヒューズ
楠　知子　田中　利光　ヘンリー・バーネット
鞍掛　昭二　鶴野　和子　ラニィ・シェルダン
鯉沼　広行　野坂　恵子　王　燕樵
杉浦　弘和　広瀬　量平
砂崎　知子　鳳声　晴由
戸井　昌造　星　旭
藤舎　呂悦　増田　睦美
仲俣申喜男　三木　稔
滝沢　修
野坂　操寿
鶴田　錦史
三木　卓雄
渡辺　精一
高瀬　卓郎
霜島　邦子
半田多真美
古川羽衣山
丹野井成寿

〈維持会友〉

AOIミュージック株式会社　青柳　孝年
株式会社西友ストア　赤木　明
株式会社豊島園　朝吹　英一
株式会社ノサカ　井阪　紘
書画筆工業　稲木　一
西武建設株式会社　榎本　容三
西武鉄道株式会社　遠藤　将一
西武百貨店　岡　昇三
誠和音芸　金子　博美
大和精工株式会社　家根原光子
タマチ工業株式会社　亀田　和保
日本オペラ協会　河野　義博
菱電商事株式会社　近藤　栄一
宮園自動車　國持　光生
宮園オート　高橋　克己
武江　利博
田村　鎮男
寺島　孝之
内藤　国枝
永根　玲子
奈良　英雄
根志　彰
新倉　鶴子
野坂　純一
旗野　恵美
早川佐和子
花房　艶子
原　順一郎
柳川　創造
福田　洋一
星　光和
縛　毬
町田　文子
松井　翠
松原　剛
宮川　国恵
柳田　正治
吉岡　紘子
頼本美保子

日本音楽集団　〒151 東京都渋谷区笹塚3－17－1　滝沢ビル302　☎03－378－4741